

令和6年度 小平市立上宿小学校学力向上を図るための全体計画

- 日本国憲法
- 教育基本法
- 学習指導要領
- 東京都教育目標
- 小平市教育目標

- 学校教育目標**
- ◎かしこい子
 - やさしい子
 - がんばる子
 - じょうぶな子

- 学校、地域の実態
- 地域の期待や願い
- 保護者の期待や願い
- 教職員の願い
- 期待される児童像

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

○基礎基本の定着のための取組を行う。児童の「学習のめあて」を明確にするとともに「めあてに対する振り返り」を行い、児童が学習の成果を感じられるようにする。全学年で習熟度別の算数指導を行い、コースに応じて「できた」「分かった」を積み重ねる指導を行い、基礎・基本の定着を図る。「考えさせる発問・活動」「意欲を引き出す言葉かけ」を工夫した授業を展開し、学習への意欲を高め、基礎基本を定着し、思考力の向上を図る。朝読書、毎月の詩の暗唱に取り組み、言葉のリズム、優れた表現に触れさせ、言葉への関心を高め、言語能力の育成を図る。算数の計算に特化した「上宿タイム」を設定し、基礎・基本の定着を図る。

○児童が主体的に学ぶ授業の実践のための取組を行う。研究授業を中心とした校内研究会を実施し、学校としての児童が「主体的に学ぶ学習のスタイル」を明らかにする。学習の必然性をもたせ、児童の「調べたい」「考えたい」「伝えたい」を引き出す授業展開を探究する。地域の人材、文化財の積極的な活用を図り、地域の強みを生かした学びを創造する。また、学習ボランティアを積極的に活用し児童の思いの実現を図る。体育の実技研修を通して授業の進め方を学び、児童がめあてをもって主体的に学ぶ体育の授業を実践する。

○これまでの実践をもとに、目的に応じてICTを効果的に活用する。デジタルドリルを使用し、基礎学力の定着を図る。家庭学習におけるICT活用の工夫を行う。

○人材育成の組織づくりを行う。日常的な学びの機会を確保したり、組織的に人材育成を行えるようにしたりする。

教科の指導の重点

- 「わからない0」を実現させる。
- 個々の学びをより確かなものとする。
- 「調べたい」「考えたい」「伝えたい」を伸ばす。
- 考え伝えることのベースとなる言語能力を育成する。
- 情報活用能力の育成を図る。
- 運動好きな児童を育成する。
- 「分かった」「できた」を地域・家庭で支える仕組みをつくる。

上宿小学校における確かな学力

○「確かな学力」とは、生涯に渡って学び続けようとする力であり、知識や技能だけでなく、学ぶ意欲や自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力までを含めたものである。

○本校では、学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。

- ◎主体的に学習に取り組む態度
- ◎思考力、判断力、表現力
- ◎知識、技能

道徳教育の指導の重点

- 「自分も相手も大切にすること」を育てる。そのために、主として人との関わりに関して「親切、思いやり」を、主として集団や社会との関わりに関して「公正、公平、社会正義」を重点とする。
- 「ねばり強く追求する意志力」を育てる。そのために、主として自分自身に関して「希望と勇氣、努力と強い意志」を重点とする。

総合的な学習の時間の指導の重点

○自ら課題を見付け解決する力と、自己の生き方を問い続ける力を育成する。「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を生かした探究的なプロセスで学習ができるようにする。

特別活動の指導の重点

○社会に参画する態度や自治的能力を育成する。そのために、児童の発達段階に即し、より主体的な活動となるように、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事を実践する。

進路指導の重点

○個性や能力の伸長、自己実現への意欲をもたせる。そのために、異学年交流だけでなく、近隣高校・幼稚園・保育園等との心の交流を深める。

生活指導の重点

○自らすすんで挨拶できる児童を育成する。そのために、毎月の「あいさつDAY」や毎学期の「あいさつ週間」を地域に広げていくとともに、教員から積極的に声かけを行う。

上宿小学校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○個に応じた指導や、算数習熟度別指導等の工夫・改善の推進。 ○課題解決学習や体験的な学習を意図的に設定。 ○学習者用端末などのICT機器の効果的な活用。	○授業時間数の確保及び、週ごとの指導計画に基づく計画的な指導。 ○朝読書や詩の暗唱、「上宿タイム」の設定による基礎・基本の徹底。	○生活科及び総合的な学習の時間を通して自分の成長を見つめ、自ら学び続ける児童の育成をテーマにした実践研究。 ○校内研修会・公開授業の定期的実施。	○指導計画と評価計画が一体となった年間計画の作成。 ○評価規準の設定とそこに到達させる指導の手だてを明確にした授業の実施。	○学校便りやホームページ更新等による家庭や地域へ向けた積極的な情報公開。 ○読み・書き・計算等の習熟を図るために地域人材を活用。 ○「分かった」「できた」を地域・家庭で支える仕組みをつくる。